

< 異 学 生 近 況 >

☆ カレッジ・専門学校新入生 8名の専攻・コース ☆

*4年課程：初等教育2名、英文科、社会福祉各1名 *2年課程：車整備2名、薬局補助、ホテル業務各1名

☆ ハイスクール、カレッジ奨学生の10名（全体の14%）が中退 ☆

スペンサー、メラニー、レイモンド、ノエル、ジョベル、ダニロ、ジャニス、シェイラ、チャーリー、フレディー。今年中退した10名です。勉強についていけない、意欲がなくなった、その結果として奨学生の条件である年度末成績80点を大幅に下回った、がその理由です。教育の専門家でもあるメリトン神父は、寮生と毎月面談するようにしたが指導には限界があったといいます。特に残念なのは、カレッジ初等教育課程をあと1年で卒業のスペンサーです。彼を含めて、中退の理由・今後のことなど、現地訪問の折に確認したいと思っています。

☆ 中退者も含めた青少年対象の技能研修 ☆

先祖伝来の土地で経済的に自立できるのが理想ですが、現実には山岳部の農地には限りがあり、職のない先住民族の青少年が増えています。就職率の高い技能を選んで、週末利用6ヶ月の研修を企画しました。研修生は、家屋配線、溶接、車整備、家事の4種合計60名を予定しており、助成が決まれば10月から開始されます。

☆ 病気治療の二人も進級しました ☆

医療報告にあった肺結核のロジャー（ハイスクール2年）とマラリアのヘンリー（カレッジ2年）の様子を担当のジョジョに聞きました。ロジャーは完治してないが、感染の恐れはないので復学した。寮生活も問題なく、念のため食器だけ別にしているということでした。ヘンリーも5日間の入院で回復。彼はマラリアの多いキアミ出身。夏休み帰省中の感染のようです。寮生の健康への懸念は以前にも書きました。防犯上、窓が少ない寮の構造は、換気に問題ありそうです。

☆村で実習、夏休みのブラクール・カレッジ学生☆

ブラクール出身カレッジ学生のうち、マイラは幼児クラスの手伝いを、ダッドとジェッシーは、学校が休みの小学生に代わり山羊の世話をするなどして夏休みを過ごしました。5月末にはコロナダルの市の学校に戻り、2年生になる進級手続きを済ませました。ブラクール小学校は住民自治組織が運営していて、アバカ、果樹、山羊からの収入が増えれば、少しずつ「ブラクール支援」を減らせます。一方で、植林やカレッジ奨学金への支援要請は増えていくと思われます。

☆ 卒業生近況 ☆

チャリタ：NIAの助成により教師資格取得を目指して2年間再教育を受けたチャリタでしたが、すでにご報告のように初志貫徹はできませんでした。今は、幼児保育（34名）、週末の大人の識字教育（40名）、さらに近隣三つのコミュニティーの母親クラブ育成にも関わるなどサムラング中心に活躍中です。ビーナとエステレリエッタ：講習を受けて助産師国家試験に再挑戦の二人。年内の合格を期待しています。

☆ 中退したチャーリー・その後 ☆

上記10名の中の1人チャーリーはハイスクール卒業まで1年を残して中退しました。寮での働きぶりが評価されてか、CMBスタッフとして、月1,000ペリでアトゥモロック学校菜園・コーヒー園の担当になりました。中退した場合は、奨学金返還をもとめるべきではという意見もあります。チャーリーの場合に限れば、1,000ペリは家族にとって唯一確実な収入です。返還問題以前に奨学生選抜方針をまず検討すべきかもしれません。

☆ G. サントスの公立ハイスクール、ピラーンの子ども受け入れ拒否？ ☆

増え続ける入学希望に公立ハイスクールの設備が間に合わず、学区外の小学校出身者は遠慮してもらおうというものです。[アロヨ大統領、公立学校に備品、教科書、教材寄附呼びかけ]のニュースも聞きました。政府予算不足で、大統領自ら実業家や民間援助団体に寄付を呼びかけました（6月11付 WINS CLUB NEWS）。低迷する経済に、フィリピンでも高い私学は敬遠されて公立は過密状態。1学級60名以上もあるようです。

結局2年生以上はこれまで同様ノビシエート寮からG. サントスの公立へ通い、新入生は事情があるマイケルを除く15名全員がミアソン寮に入り、地元の公立ハイスクールに入学しました。ここは創立5年目で未だ余裕があります。寮舎建設に続き中田さんのご協力でベッド等の増設も完了。寮生の数は非奨学生も含めて42名です。